Dear地球民

第23号
2000年11月発行

編集発行　ゆがわら国際交流協会
〒259−0303　神奈川県足柄下郡湯河原町土肥 1-7-1
湯河原町商工会内　TEL0465-63-0111

THE 15TH やっさ国際交流

⇦ 親子になり切っている
鄭喬日さん（台湾）と
前田牧子お母さん（吉浜）

⇧ 別れの時迫る
金愛子さん（韓国）と
福田さん（宮下）

⇦ 大好きな日本のお母さん
邱家薇さん（台湾）と
柳沢さん一家（吉浜）

第１５回やっさ国際交流 << ８日間の印象>>

86 年から始まったやっさ国際交流も 15 回を数え、19 ヶ国から 330 人の留学生が湯河原を訪れ、町内各家庭でのホームステイを通して心と心の交流が行われた。今年も 4 ヶ国から ２３名が参加、留学生とホストから一言づつ感想を述べてもらった。

彭鴻旺(台湾):優しい家族と美味しい料理をありがとう。
柏木謙三(鍛冶屋):息子ができて、とても幸せ。

李泰俊(韓国):祭りを通して日本を知った。
橋本経子(吉浜):家庭に和やかなムードを作ってくれてありがとう。

呉明穎(台湾):家族皆んな明るくて毎日楽しかった。
鈴木孝芳(城堀):すぐ家族に打ち解けアッという間の１週間だった。

金成妍(韓国):やっさ踊りに参加でき、とても面白かった。
茂田富士松(城堀):家で作ってくれたビビンバとても美味しかった。

馬銀珠(韓国):皆の前でやっさ踊るの恥ずかしかったけど楽しかった。
高橋賢次(土肥):夕食の片付け等率先して手伝ってくれ助かった。

邱家薇(台湾):色々な所へ連れて行ってくれ楽しかった。又来たい。
柳沢かおり(吉浜):神経が細やかで気を使ってくれた。娘もよくなついた。

鄭雪怜(台湾):可愛い子供がいて楽しかった。浴衣着て嬉しかった.
杉山行由(吉浜): 3 回目でリラックスし、ハッピーな１週間でした。

林啓鈺(台湾):新宿と違い湯河原は不安やこわい感覚がない。高さんの子供みたいだった。
高京子(宮下):アッという間の１週間。

黎詩敏(台湾):初めて日本の草履を履いて痛かった。
ホスト尖英雄(吉浜)

謝巧儀(香港):お寺を見ても住むのは初めて。いい経験だった。
ホスト尖英雄(吉浜)

幕山公園でのお弁当タイム
思い思いのグループに分かれ
アチコチに楽しそうな笑い声と
美味しそうな匂いが立ち込めていた。

鄭喬日(台湾):浴衣を着て踊る。夢が叶った。ご両親は面白く親切だった。
前田牧子(吉浜): 喬日さんのお父様から電話もらい、台湾訪問を約束した。

クラウジオ・フジモト(B):ブラジルにない変ったパレードに参加でき嬉しかった。
長谷川弘治(宮上):家族に溶け込み自然に振舞える素晴らしい青年だった。

(B = ブラジル)

マルセロ・オキダ・ユーゾー(B):日本とブラジル文化の違いが理解できた。
高橋経行(江の浦):日本語を教えながらコミュニケーションが取れた。

チアゴ・オサム・キムラ(B):新しい人と出会い、新しい友情を結べた。
田代広伸(鍛冶屋):ナイスボーイのオサムは気を使わず楽しく過ごせた。

タチアーナ・オリベイラ・ヴィレーラ(B):親切だった家族の皆さん、いたこさん、近所の方々、いつも私の心にいます。
渡辺たけ子(宮上):皆に助けられて楽しく過ごせた。最高の想い出ができた。

マヤ・ナカハラ(B):心のポケットはいい思い出でいっぱいです。
岩倉崇徳(中央):本当に楽しい1週間。ホストを嫌がって馬鹿みたいだった。

朴志迎(韓国):親切な家族で、育った環境は違っても心は1つだと知った。
秋山里花(土肥):初めて韓国の文化に触れて世界が広がった。

尹美詠(韓国):ホスト、浴衣、やっさ、花火、富士、友達、皆忘れない。
露木高信(宮下):富士を見せたくて4回目に実現。さわやかに見送れた。

楊蒂蒂(台湾):末っ子の私、しんちゃんと犬と遊んで嬉しかった。
平野良光(鍛冶屋):帰したくないすばらしい娘だった。

梁寶心(香港):親切な家族。本当の家族よりいい。
室伏富美江(宮上):地球人は皆同じ。暖かい心を持った人間です。

權日仙(韓国):国の父母と変らぬ愛をありがとう。とても楽しかった。
中村てる子(吉浜):心優しい娘だった。今秋韓国での再会が楽しみ。

金愛子(韓国):いいご両親に会えて嬉しい。いつも楽しかった。
福田富之助(宮下):強烈な夏の太陽と共に風のごとく過ぎし日々。

全炳奎(韓国):パレードは気持が1つになり、楽しかった。
高橋経行(江の浦):とてもよい時間を過ごせた。

笑と涙そして感動 ～ホストファミリー８日間～

★ 出迎え

７月30日14時７分の快速アクティーが到着した。留学生を出迎える我々は夫々が作った歓迎プラカードを掲げて目をキョロキョロさせて降りて来る人を待ち受けた。

私と孫（学生）それに娘（長男の嫁で以下ママと称する）の３人はどんな娘さんが来るかと半ば期待と初対面の不安でジッと通路を見つめていたが、来ない。結局一列車遅れて到着した。ホッとした我々３人は笑顔が可愛いい長身の彼女を手を振って出迎えたのである。

あらかじめ事務局から戴いたプログラムによると彼女の国籍はイギリス（香港）、名前は梁寶心（リョウホウシン）ニックネームはココである。我々は彼女を「ココ」と呼ぶことにした。（現在東京外国語専門学校で、広東語、中国語、英語、日本語を勉強中とのこと）

本人の参加申込書によると日本語はどの位出来ますかとの問に「少々」と記入してあった。

★ 生活習慣

ここで我が家のことを若干記すこととする。長男が13年前亡くなったので現在はママと２人の娘（綾と華）の３人暮しで（私達老夫婦は別所帯で歩いて10分程の近所に住んでいる。）ここでココちゃんは８日間を過ごすことになったのである。

ある日のことである。夏休みに入っているので２人の孫はアルバイトと１人は学校へ、そしてママは勤務である。「ココちゃん、今日昼までは貴女１人だけど出来るだけ早く帰るからね」「ハイダイジョウブ」３人は夫々出かけて行った。

その日の昼から夕方にかけて夫々が帰宅した。家に入って驚いた。室内が綺麗に片付いていたのである。彼女は誰に指示された訳でもなく、また頼まれた訳でもないのに恐らく日常の生活習慣がそのまま行動に出たのであろう。ホームステイの彼女に私は大きな拍手を贈りたいと思う。

社会人としての人間のあり方を改めて知らされた思いであった。

★ 優しさ

８月５日“グッパイパーティー”は美しい民族衣装に着飾ってそれぞれの故郷のうたや踊りを披露してくれた。ココちゃんの番になった。香港から来た友人と２人で舞台に上がった。２人は故郷の幼稚園の遊戯に似た可愛いい踊りを披露してくれた。あどけなさと少々の恥らいを感じる２人を見ているとおとなしいココちゃんらしいなと思った。

第２部では各自が夫々のホスト宅で自分で作った料理やホストファミリーの皆さんの作られた料理を持ち寄った一品料理で大いに盛り上がった。私は足痛のため壁際で腰掛に腰を下ろして皆さんの様子を眺めていた。

その時である。彼女が小皿に自分の作った料理を入れて箸を添え「オジイチャン、ココ作ッタ、タベテ」とうどんに似た自国の料理を差し出した。思いがけないこの様子に私は一瞬頭の中がジーンとしたのだった。

優しさについてはまだまだ続く。後日談になるが、８日間の日程が終わって夫々が帰国して19日が経った８月21日のことである。母国の香港へ帰った彼女から突然電話が来た。「オジイチャン、ココデス。オタンジョウビオメデトウー。ハッピーバースデー」と、彼女は初対面の時お互いに誕生日が同じだネと話し合った時のことを覚えていたのである。私の頭の中は完全に女の孫が３人になってまたまた感動してしまった。

★ 積極的で努力型

ココちゃんは我々と話していても一生懸命日本語を覚えようと努力している。日本語は外国の人々から見ると早口でとても分かりにくい様子で（注）私が英会話を聞いていてもとても早口に感じるのと同じかも知れない。私と会話のときもユックリ話すと分かる様子で常に小さな手帳を手にして一生懸命メモしている。その真剣さにまたまた驚いてしまった。

ある大学の講師の話を思い出した。授業中も学生からの質問はまだない。質問しても皆下を向いてしまい誰も手を挙げて答えようとしない。活発に質問や受け答えするのはアジア諸国からの留学生達ばかりと彼等の積極性を話していた。彼女がまさにその通りである。我々と会話していても分かりにくい言葉があるとすぐ質問するし、また手まめにメモを取る。一見おとなしそうなこの娘さんの積極さと努力家に本当に驚いてしまったのである。

★ 別れのプラットホーム

8月6日商工会の3階での閉講式が終わると今回の交流プログラムも一区切りついた。送る人、送られる人共に夫々の胸の内に様々な思いが輻輳して、あちらこちらで目頭をハンカチで押さえていた。タッタ8日間であったが初めてのホストファミリーとして異国の人と生活を共にした我が家の家族も、ホームステイの研修生も国や言葉が違っていても人間だけに流れる熱いものがこうして交流したのである。

8日間自分の勤めの間を縫って身の廻りを世話したママと孫たち、それに私共老夫婦も加わってホームまで見送った。ココちゃんも目にいっぱい涙を溜めて「オジイチャン、カラダキヲツケテクダサイ」と噛み締めるようにゆっくり言ってくれた。

「ココちゃんも頑張って体に気をつけなさいネ」彼女は大粒の涙をいっぱい溜めた顔で我々家族の一人ひとりに別れの抱擁をした。涙の顔を見かねた私はポケットから多少くしゃくしゃになったハンカチを出して涙を拭いた。彼女はそれを持って上り電車に乗り手を振った。私も胸がキューンとした。

ココちゃん。ママも、綾ちゃんも、華ちゃんも、オジイちゃんも、おばあちゃんも皆んなココちゃんが大好きです。またいつの日かお目にかかれる日を楽しみにしているネ、と心の中で挨拶した。

★ 地球民連

地球上では昔からず一っと今まで多くの人々の尊い血が失われて来た。肌や目の色が変っていても、心を流れる熱い血潮は、そして人間愛は変ってはならない筈である。全世界の人々が人間として地球人としてお互いに相手を尊重し、協調して世界の平和を築いたとき、総ての人々は幸せになれる。これが人間としての使命であると思う。

留学生諸君を見てまた共に生活して教えられることの多さに改めて自分を反省し、同時に清らかな青春、友情、明るさを世界平和に役立てていただきたいと心から願う次第である。

★ 感　謝

今回の第15回やっさ国際交流事業に献身的に取組んだスタッフの皆様、またお忙しい中を留学生に愛の心で接して下さったホストファミリーの皆さん、その他、町、商工会及び関係機関の皆さんに私は町民の1人として心からなる感謝の気持でいっぱいです。ありがとうございました。

昇栄堂味楽庵
社長　室伏　昇

交換留学生７名が来湯
湯中で２週間の体験入学

姉妹都市ポートスティーブンス市より

昨年（1999 年）8 月、湯河原町と豪州ポートスティーブンス市は晴れて姉妹都市関係を樹立。昨年 10 月、交流第一弾として 6 名の湯河原中学生が同市を訪問。交換留学生として 2 週間に渡り同市の学校に入学し、同市の学生達や市民との友好を深めて来た。今年（2000 年）4 月、同市より 7 名の高校生が来湯、湯中での 2 週間の体験入学を通して、湯中学生や町民との親交を深めた。

---

4 月 15 日午後 1 時、町のバスは商工会館前に到着した。ジャッキー・アラン先生に引率された 13 才から 15 才までの７名の女子高生達はホストファミリーとの対面式会場に向った。皆、緊張した面持ちだったが、なごやかな表情に変わるのにそれほどの時間は必要なかった。

16 日から 25 日までの約 2 週間を湯中２学年の各クラスに 1 人づつ編入され、湯河原の生徒達と授業を共にした。両国の子供達が親しくなるのに言葉はいらなかった。休み時間には彼女達を中心に大きな輪ができ、知ってる単語と手振り身振りを取り混ぜてにぎやかな交流が行われていた。湯河原の生徒達にとってもすばらしい体験になったようだ。

23 日（日）は国際交流協会主催で箱根観光を実施した。ホストファミリーや湯中学生十数名も参加し、楽しい 1 日を過ごした。

帰国前日の 25 日の夜には商工会館で盛大なグッバイパーティーが開かれ、お互いの国の踊りや歌、太鼓や三味線などを披露し合った。プレゼント交換で閉会宣言をした後も、多数参加した湯河原の生徒達といつまでも別れを惜しんでいた。

彼女達は 4 月 26 日に帰国したが、彼女達が残した足跡は湯河原の生徒達の心にいつまでもすばらしい想い出として残り、いい経験になったに違いない。

グッバイパーティーで
オーストラリアの民謡を
披露するポートスティーブンス
の学生たち
ちょっと恥ずかしそう

後期語学講座がスタート

英　語

大石レノア先生（湯中）を講師に、9/14 より毎木曜日、宮下会館で開催。受講生 18 名（全 10 回）

韓国語

安眞姫先生（東大）を講師に、9/26 より毎火曜日、宮下会館で開催。受講生 12 名（全 5 回）

中国語

李平先生（東海大）を講師に、9/27 より毎水曜日、城堀会館で開催。受講生 15 名（全 5 回）

役員全員留任

第 13 回総会で

平成 12 年 6 月 1 日商工会館において、第 13 回通常総会が開催された。今年は任期満了に伴う役員改選の年に当たり、席上全会一致で全役員の留任が決まった。

新役員は以下の通り、

会　長　高橋賢次（留任）
副会長　杉山茂久（留任）
同　早藤義則（留任）
同　金井文江（留任）
同　高橋一子（留任）
同　竹林徹雄（留任）
会　計　山中恵理（留任）

ファミリー全員集合！
今年も楽しい X'マス

日時　2000 年 12 月 22 日（金）　午後 6 時より
場所　ゆがわら童夢
チャリティーオークションを行います。是非品物のご協力を！
仮装の準備もお忘れなく！

お願い

◎ 機関誌「Dear 地球民」への皆様からのご寄稿を待ってま～す！

会員皆様の機関誌です。エッセイでも、和歌や俳句、絵画や漫画、写真、何でも結構です。皆様の作品でいっぱいの機関誌にしたいと願っています。どしどしご応募ください。　（提出先：商工会内協会事務局）

◎ 会員のＥメールアドレス帳への登録をしませんか？

多くの会員が e-mail をやっているとの情報を得、協会では e-mail アドレス帳を作成しました。現在登録者数は 25 名ほどになりました。会員同士の交流や協会の連絡などに利用しています。未登録者の方は下記まで是非メールください。Dear 地球民への投稿もメールにて受け付けています。

連絡先：tsutaya-ito@mwd.biglobe.ne.jp

会員寄稿

iモードとは何ぞや

iモードとは何のこと？今時こんなことを言う様じゃ日本人ではない・・・・それほどの勢いで普及しているNTTドコモの商標で、インターネット機能が付加されたケータイ電話のことだ。亡くなった小渕さんは、この便利性を発揮して、いろいろな人とのコンタクトに成功したようだ。普及率の向上にブッチホンの貢献度は見逃せない。

ケータイ電話の技術が進歩して、色々な機能がどんどん付加されており、それを上手く使いこなしている若者たち、それを横目で見ていてトヤカク言うだけの人たち、今のところはっきり分かれている状態だが、やがて電気器具が普及したように、誰もが使いこなす時代がくるだろう。

近い将来はコンピュータにも取って変わる時代がくると予想する声さへ聞かれる勢いだ。

いつでも、何処でも、誰からでも、誰にでも連絡ができる大変便利な機器であり、ビジネス・マンには、報告、連絡、待ち合わせ、E－メールなどなど、使いでのある機器だ。

便利さを追求した結果、近い将来、世界的な広がりで、使えるようになるという。

夢は広がり、限りなく便利性を追求するのは、現代の宿命だ。

こうした陽（日）のあたるケータイ電話には、陰の部分もあるようだ。例えば、女子高校生をしつこく追い掛け回し、殺人にまで発展した事件のことは記憶に新しい。

無謀で、野卑な男のたったの一言のなかに、その男の本質が宿っていたのではないか。

朝日新聞の天声人語に面白い記事が出ていた。（平成12年6月19日）
ケータイは恋人たちには「二十四時間臨戦体勢」を強いられているのだという。いつでもつながる。それが前提だから、電話に出ないと相手はいらいらする。「何してたんだ」と詰問される。はては心変わりか、などと疑心暗鬼ばかり募らせる。現代人は「待つ」という行為は苦手になっている。

森鴎外の日記を題材にした小説を松本清張が書いている。そのなかに「でんびんや」という仕事のことが書かれている。「伝便屋」というらしいが、九州の小倉に実在した商売らしい。つまり、愛し合う二人の逢引の約束が急に変更したような場合、この伝便屋に依頼する。ちりん、ちりんと鳴らす鈴が、伝便屋の通る合図だった。わびしげな鈴の音とともに、幾多の内緒ごとが、ちまたを行き来した。

電話のない時代の、急ぎの付け文などを請け負った配達人の存在は、恋人たちの頼りになるものだったと思う。

昔も今も恋するものの姿は、いじらしいものだが、伝便屋からケータイへの、時の流れの中、われわれが手に入れたものと、失ったかもしれないものの対照は、鮮やかだと、このコラムは結ばれていた。

（石井立夫）